

ICT事業に注力

道医療連携 ASCVD予防など

NPO法人「北海道医療連携ネットワーク協議会」(理事長・宝金清博)

昨年6~9月に心電図

測定が行われた64例のうち2例で心房細動の可能性が検出され、うち1例は専門病院受診で心房細動と診断され、治療が行われた。今後、参加薬局を増やす予定。

また札幌市の新型コロナウイルス感染健康観察プラットフォーム「こびまる」を活用し、医療者が患者の自己管理記録をリアルタイムで把握できるシステムも構築。患者の自己管理能力向上や

合併症・再入院予防も期待される。ASCVD予防推進はノバルティスファーマの助成で実施する事業。ASCVD危険因子の管理目標達成率の向上に向けて、患者と薬剤師を含む医療者が管理目標値を共有するツールとして同法人の「あんしんお薬手帳」を活用するとともに、アプリ版も開発する。現在道内19医療機関がプログラムに参加し、今後患者データを解析予定だ。

同法人は、ASCVD予防推進プログラム研修会「地域における病診薬連携」を8月31日午後6時20分から中央区の札幌

国際ビル8階国際ホールで開催する。

みきファミリークリニック(東区)の三木敏嗣院長が「さつぽろ北部地域の生活習慣病に対する予防の周知とその後の対応について」、八尾市立病院(大坂府)の小枝伸行事務局次長が「八尾市立病院における地域医療連携システムの現状と課題」を講演する。

参加無料。申し込み締め切りは8月1日。問い合わせは同法人メールhosnet-sacvd@ncp-meeting.jp、ファクス050(3)737(7)066。

「理専長・宝金清博」は総会を開き、2023年度活動計画を承認した。ICT事業では、薬局を活用した脳卒中予防、左室補助人工心臓(LVAD)装着患者の遠隔診療、動脈硬化疾患(ASCVD)予防プログラム推進の3プロジェクトに重点的に取り組むほか、アプリ版「脳卒中・心筋梗塞あんしん連携ノート」を用いた医療連携に関する実証実験を本年度は札幌秀友会病院で行う。

22年度活動報告では、スマートヘルスケア協会と提携する「薬局を活用した心房細動に起因する脳卒中等を予防するため

の地域生活者啓発プロジェクト」の取り組み状況

を説明した。同協会は、調剤薬局に心房細動等の可能性を自己検出する心電計付き血圧計を設置し、来局患者に自己測定してもらい、異常時はかかりつけ医等への受診を促す事業を全国展開している。本道では同法人と提携し、東区のみきファミリークリニックと門前薬局で実証実験を行っている。

装着患者は常に合併症と隣り合わせで、広域の本道は急変時対応が問題となっており、その場合は連携する各地の非管理認定施設が対応せざるを得ない。そこで北大は同法人のノウハウを活用して遠隔外来のトライアルを昨年12月から開始し、医療者・患者ともに感触は良好だという。

また札幌市の新型コロナウイルス感染健康観察プラットフォーム「こびまる」を活用し、医療者が患者の自己管理記録をリアルタイムで把握できるシステムも構築。患者の自己管理能力向上や

合併症・再入院予防も期待される。ASCVD予防推進はノバルティスファーマの助成で実施する事業。ASCVD危険因子の管理目標達成率の向上に向けて、患者と薬剤師を含む医療者が管理目標値を共有するツールとして同法人の「あんしんお薬手帳」を活用するとともに、アプリ版も開発する。現在道内19医療機関がプログラムに参加し、今後患者データを解析予定だ。

同法人は、ASCVD予防推進プログラム研修会「地域における病診薬連携」を8月31日午後6時20分から中央区の札幌

国際ビル8階国際ホールで開催する。

みきファミリークリニック(東区)の三木敏嗣院長が「さつぽろ北部地域の生活習慣病に対する予防の周知とその後の対応について」、八尾市立病院(大坂府)の小枝伸行事務局次長が「八尾市立病院における地域医療連携システムの現状と課題」を講演する。

参加無料。申し込み締め切りは8月1日。問い合わせは同法人メールhosnet-sacvd@ncp-meeting.jp、ファクス050(3)737(7)066。

「理専長・宝金清博」は総会を開き、2023年度活動計画を承認した。ICT事業では、薬局を活用した脳卒中予防、左室補助人工心臓(LVAD)装着患者の遠隔診療、動脈硬化疾患(ASCVD)予防プログラム推進の3プロジェクトに重点的に取り組むほか、アプリ版「脳卒中・心筋梗塞あんしん連携ノート」を用いた医療連携に関する実証実験を本年度は札幌秀友会病院で行う。

22年度活動報告では、スマートヘルスケア協会と提携する「薬局を活用した心房細動に起因する脳卒中等を予防するため

の地域生活者啓発プロジェクト」の取り組み状況

を説明した。同協会は、調剤薬局に心房細動等の可能性を自己検出する心電計付き血圧計を設置し、来局患者に自己測定してもらい、異常時はかかりつけ医等への受診を促す事業を全国展開している。本道では同法人と提携し、東区のみきファミリークリニックと門前薬局で実証実験を行っている。

装着患者は常に合併症と隣り合わせで、広域の本道は急変時対応が問題となっており、その場合は連携する各地の非管理認定施設が対応せざるを得ない。そこで北大は同法人のノウハウを活用して遠隔外来のトライアルを昨年12月から開始し、医療者・患者ともに感触は良好だという。

また札幌市の新型コロナウイルス感染健康観察プラットフォーム「こびまる」を活用し、医療者が患者の自己管理記録をリアルタイムで把握できるシステムも構築。患者の自己管理能力向上や

合併症・再入院予防も期待される。ASCVD予防推進はノバルティスファーマの助成で実施する事業。ASCVD危険因子の管理目標達成率の向上に向けて、患者と薬剤師を含む医療者が管理目標値を共有するツールとして同法人の「あんしんお薬手帳」を活用するとともに、アプリ版も開発する。現在道内19医療機関がプログラムに参加し、今後患者データを解析予定だ。

同法人は、ASCVD予防推進プログラム研修会「地域における病診薬連携」を8月31日午後6時20分から中央区の札幌

国際ビル8階国際ホールで開催する。

みきファミリークリニック(東区)の三木敏嗣院長が「さつぽろ北部地域の生活習慣病に対する予防の周知とその後の対応について」、八尾市立病院(大坂府)の小枝伸行事務局次長が「八尾市立病院における地域医療連携システムの現状と課題」を講演する。

参加無料。申し込み締め切りは8月1日。問い合わせは同法人メールhosnet-sacvd@ncp-meeting.jp、ファクス050(3)737(7)066。

「理専長・宝金清博」は総会を開き、2023年度活動計画を承認した。ICT事業では、薬局を活用した脳卒中予防、左室補助人工心臓(LVAD)装着患者の遠隔診療、動脈硬化疾患(ASCVD)予防プログラム推進の3プロジェクトに重点的に取り組むほか、アプリ版「脳卒中・心筋梗塞あんしん連携ノート」を用いた医療連携に関する実証実験を本年度は札幌秀友会病院で行う。

22年度活動報告では、スマートヘルスケア協会と提携する「薬局を活用した心房細動に起因する脳卒中等を予防するため

の地域生活者啓発プロジェクト」の取り組み状況

を説明した。同協会は、調剤薬局に心房細動等の可能性を自己検出する心電計付き血圧計を設置し、来局患者に自己測定してもらい、異常時はかかりつけ医等への受診を促す事業を全国展開している。本道では同法人と提携し、東区のみきファミリークリニックと門前薬局で実証実験を行っている。

装着患者は常に合併症と隣り合わせで、広域の本道は急変時対応が問題となっており、その場合は連携する各地の非管理認定施設が対応せざるを得ない。そこで北大は同法人のノウハウを活用して遠隔外来のトライアルを昨年12月から開始し、医療者・患者ともに感触は良好だという。

また札幌市の新型コロナウイルス感染健康観察プラットフォーム「こびまる」を活用し、医療者が患者の自己管理記録をリアルタイムで把握できるシステムも構築。患者の自己管理能力向上や

合併症・再入院予防も期待される。ASCVD予防推進はノバルティスファーマの助成で実施する事業。ASCVD危険因子の管理目標達成率の向上に向けて、患者と薬剤師を含む医療者が管理目標値を共有するツールとして同法人の「あんしんお薬手帳」を活用するとともに、アプリ版も開発する。現在道内19医療機関がプログラムに参加し、今後患者データを解析予定だ。

同法人は、ASCVD予防推進プログラム研修会「地域における病診薬連携」を8月31日午後6時20分から中央区の札幌

国際ビル8階国際ホールで開催する。

みきファミリークリニック(東区)の三木敏嗣院長が「さつぽろ北部地域の生活習慣病に対する予防の周知とその後の対応について」、八尾市立病院(大坂府)の小枝伸行事務局次長が「八尾市立病院における地域医療連携システムの現状と課題」を講演する。

参加無料。申し込み締め切りは8月1日。問い合わせは同法人メールhosnet-sacvd@ncp-meeting.jp、ファクス050(3)737(7)066。

「理専長・宝金清博」は総会を開き、2023年度活動計画を承認した。ICT事業では、薬局を活用した脳卒中予防、左室補助人工心臓(LVAD)装着患者の遠隔診療、動脈硬化疾患(ASCVD)予防プログラム推進の3プロジェクトに重点的に取り組むほか、アプリ版「脳卒中・心筋梗塞あんしん連携ノート」を用いた医療連携に関する実証実験を本年度は札幌秀友会病院で行う。

22年度活動報告では、スマートヘルスケア協会と提携する「薬局を活用した心房細動に起因する脳卒中等を予防するため

の地域生活者啓発プロジェクト」の取り組み状況

を説明した。同協会は、調剤薬局に心房細動等の可能性を自己検出する心電計付き血圧計を設置し、来局患者に自己測定してもらい、異常時はかかりつけ医等への受診を促す事業を全国展開している。本道では同法人と提携し、東区のみきファミリークリニックと門前薬局で実証実験を行っている。

装着患者は常に合併症と隣り合わせで、広域の本道は急変時対応が問題となっており、その場合は連携する各地の非管理認定施設が対応せざるを得ない。そこで北大は同法人のノウハウを活用して遠隔外来のトライアルを昨年12月から開始し、医療者・患者ともに感触は良好だという。

また札幌市の新型コロナウイルス感染健康観察プラットフォーム「こびまる」を活用し、医療者が患者の自己管理記録をリアルタイムで把握できるシステムも構築。患者の自己管理能力向上や

合併症・再入院予防も期待される。ASCVD予防推進はノバルティスファーマの助成で実施する事業。ASCVD危険因子の管理目標達成率の向上に向けて、患者と薬剤師を含む医療者が管理目標値を共有するツールとして同法人の「あんしんお薬手帳」を活用するとともに、アプリ版も開発する。現在道内19医療機関がプログラムに参加し、今後患者データを解析予定だ。

同法人は、ASCVD予防推進プログラム研修会「地域における病診薬連携」を8月31日午後6時20分から中央区の札幌

国際ビル8階国際ホールで開催する。

みきファミリークリニック(東区)の三木敏嗣院長が「さつぽろ北部地域の生活習慣病に対する予防の周知とその後の対応について」、八尾市立病院(大坂府)の小枝伸行事務局次長が「八尾市立病院における地域医療連携システムの現状と課題」を講演する。

参加無料。申し込み締め切りは8月1日。問い合わせは同法人メールhosnet-sacvd@ncp-meeting.jp、ファクス050(3)737(7)066。